

2007・4・17 **みらい通信** NO.13

講演要旨

(みらい通信NO.12の続き)



中田直助講演会

2006/11/19 13:30～17:00

豊川市勤労福祉会館第2研修室

後援：豊川市 豊川市教育委員会

参加：23名

講師を囲む会参加：13名

参加者全員が親テストをし、それに基づいて講演されました。

講演後、**講師を囲む会**を行い、気づきのある中身の濃い話し合いができました。

親テスト

子どもに対して、これまであなたが取ってきた行動について尋ねます。各問いについて、1～3の中から自分の取った行動に近いものを一つ選んで、○をつけてください。

子どもがゲーム(テレビ)等に夢中になっていて、いつまでもやっていた。

- 1.好きなだけ自由にやらせておいた。
- 2.時間を決めてやるように注意した。
- 3.いつまでやっているのと叱ってやめさせた。

勉強(宿題)がわからないからと、子どもが言ってきた。

- 1.良い塾とか家庭教師を探して行かせた。
- 2.「他の人に聞きなさい」と答えた。
- 3.見たけれど難しかったので、「わからない」と答えた。

ほしい物があってお金(お小遣い以外の)がほしいと、子どもが言ってきた。

- 1.「お小遣いを計画的に使うようにしなさい」と注意した。
- 2.何を買うのかを聞いたが、「考えておくから」と答えた。
- 3.有益なものならばお金をあげたが、そうでなければあげなかった。

親のすることについて、子どもが批判してきた。

- 1.大人のことはわからないので、「黙っていなさい」と言った。
- 2.大人としての意見を言って、子どもの間違いを教えた。
- 3.おかしいことを言っているなと思いながら聞いた。

今日は学校へ行きたくないと、突然、子どもが言い出した。

- 1.何で行きたくないのか理由を聞き出した。
- 2.元気がないので心配になり、病院に連れていった。
- 3.学校へ休みの連絡をして、休ませた。



子どもから見た親の姿 いざこちのいい家庭とは

玄関の戸を緊張して開ける子どもがいる。
そのとき、親がいるいないは関係ない。
家庭の空気に居心地の悪さを感じている。

「おふくろはタイマーをかけた」と言った人がいた。子どもはやらざるを得ない心境、いっぱいある不安をその時だけ消せると思っている。抱えている子どもの悩みに親は気づかなければいけない。時間がかかるかもしれないが、四六時中ゲームをしていても、いずれ必ずやめる。ゲームばかりしていた子どもが、高卒認定試験（大検）に合格し、その後、一日も休まずに働いている例がある。ゲームばかりしている人が、人間関係が苦手とか学習能力が劣るとは、必ずしも言えない。

子どもは言うことをこころろ変える。どれも嘘ではなく真剣に考えたこと。頭から否定せずに受けとめてほしい。子どもと議論して負かそうとする親がいる。「誰に食べさせてもらっているのか」などと言ってしまふ。親を批判することは親に興味があるから。親は親批判を「ありがとう」という気持ちで聴いていると、子どもは受けとめられていると感じ、嬉しいと思うようになる。親と子では、価値観が違って当然。その上で親子の会話ができることがいい。

子どもは何をしているかを、親にまず見てもらいたいと思っている。親はいいアドバイスをして威厳を見せたがるが、「こんな難しいことしてるんだね」と言っても、子どもは、親をバカにしたりしない。

どうしたら子どもが成長できるかを考えてほしい。小中高と通学できていても大学に入ってから通学できなくなることもある。いやな思いをいつまでも引きずることはできない。不登校を続けていると社会性が育たないといわれるが、小2から不登校で、全然学校に行かなかった子どもが、今、不登校の子どもたちのまとめ役となって社会貢献している。不登校児は他人と競争することがないので、勉強ができないといったコンプレックスを持たない。不登校で英語の授業を受けていない中学生が、外国の人と楽しく英語で話をしている例もある。

いい点数を取ったらあげるとか、条件付きにははいけない。親は、努力を見ずに成績（結果）のみを重視しがち。まず、子どもの気持ちを聴くことが大切。経済状態などから待つてほしいと言い、即断しない。

講師：中田直助さん

中田先生は、子ども達が自由に自分を出すことができ、自分の興味を追求できる場所として、アメリカの有名なフリースクール「サドベリースクール」を手本にして、1997年、豊橋市に「アイチ・サドベリースクール」を開設した。不登校の子ども、高校中退者、対人関係に悩む子ども、ひきこもりの子どもと毎日接し、彼らの問題が大人の問題であることに強く心をいためておられる。

豊橋市青少年問題協議会専門委員 NPO法人『いまから』設立代表

若者情報室

青少年期の問題の相談、不登校、ニート、いじめ、リストカットなどに悩む当事者や親の情報交換の窓口。電話相談も行う。 無料

場 所：新城まちなみ情報センター1F（JR飯田線新城駅徒歩3分）

日 時：火～日曜日（月曜日休館）10：00～16：00

専用：0536-23-8780

主 催： 青少年自立支援 NPO法人『いまから』（東三河の子どもたちは東三河の大人たちの手で育てたいと地元で青少年に関わってきた個人・団体の連合組織）

理事長 宮沢三枝子コミュニティ鈴の緒代表
設立代表 中田直助アイチサドベリースクール代表
理事 滝川紀幸新城まなびWAVE代表
事務局長 浅井旦子新城学びWAVE